

三重県の廃棄物データ

産廃の発生量 および内訳

06年度の産業廃棄物の発生量は、757万8107トであった。種類別発生量では、汚泥が422万4436ト（産業廃棄物発生量の55・7％）と最も多い。次いでがれき類が134万9928ト（同17・8％）、動物のふん尿が97万1049ト（同12・8％）、廃プラスチック類19万65ト（同2・5％）の順となっており、この4種類で全体の88・8％を占めている。

産廃の 処理状況

06年度の産業廃棄物の発生量は、757万8107トであった。種類別発生量では、汚泥が422万4436ト（産業廃棄物発生量の55・7％）と最も多い。次いでがれき類が134万9928ト（同17・8％）、動物のふん尿が97万1049ト（同12・8％）、廃プラスチック類19万65ト（同2・5％）の順となっており、この4種類で全体の88・8％を占めている。

00年度における産業廃棄物発生量は361万9000トで、有償物量35万2000トを除いた排出量は326万7000トとなっている。業種別では製造業が177万9000ト（54％）、建設業が100ト（55％）、再生利用量は113万100ト（35％）で、がれき類が82万4000ト（73％）と最も多い。

04万2000ト（32％）、電気・水道業が40万3000ト（12％）。種類別には、汚泥170万ト（52％）、がれき86万9000ト（27％）、廃プラスチック類11万6000ト（4％）となっている。

排出された産業廃棄物は、中間処理を経て再生利用に回るほかは、直接あるいは中間処理後に最終処分される。排出量のうち、減量化量は179万1000ト（55％）、再生利用量は113万1000ト（35％）で、がれき類が82万4000ト（73％）と最も多い。最終処分量は34万5000ト（11％）で、種別は汚泥が14万9000ト（43％）、次いでがれき類（13％）となっている。

また、同年度において県内で発生した産業廃棄物のうち、県外へ搬出された量は35万3000トであるのに対し、県外で発生した産業廃棄物が県内に搬入された量は69万2000トとなっている。搬入先別では、愛知県が15万5000トで最も多く、以下は岡山県、滋賀県、岐阜県の順。一方、搬入元別では、愛知県が36万3000トで最も多く、以下は岐阜県、滋賀県、大阪府の順となっている。近畿圏、中京圏からの搬入が大半を占めている。なお、県内に搬入された産業廃棄物の70％は再生利用されている。

多くの設置されている。出された量は35万3000トであるのに対し、県外で発生した産業廃棄物が県内に搬入された量は69万2000トとなっている。搬入先別では、愛知県が15万5000トで最も多く、以下は岡山県、滋賀県、岐阜県の順。一方、搬入元別では、愛知県が36万3000トで最も多く、以下は岐阜県、滋賀県、大阪府の順となっている。近畿圏、中京圏からの搬入が大半を占めている。なお、県内に搬入された産業廃棄物の70％は再生利用されている。

処理施設の 状況

03年3月31日現在で、中間処理施設は505施設あり、処理の種類別では、汚泥の脱水施設が全体の51％で、その他、がれき類等の破砕施設、廃プラスチック類の焼却施設などが

03年3月31日現在で、中間処理施設は505施設あり、処理の種類別では、汚泥の脱水施設が全体の51％で、その他、がれき類等の破砕施設、廃プラスチック類の焼却施設などが

産業廃棄物の排出量の削減のため、再生利用率の向上に重点的に取り組むとし、目標値を定めた。目標値は▽排出量▽10年度365万ト（00年度326万7000ト）に対して増加を12％に抑制▽再生利用率▽10年度42％（00年度35％）▽最終処分量▽10年度17万5000ト（00年度34万5000ト）に対して半減（10ト）としている。

三重県産業廃棄物種類別発生量(2000年度) 単位:万ト

